

第6回葉山町子ども・子育て会議 議事要旨

- 1 開催日時
平成26年6月2日(月)10時~12時30分
- 2 開催場所
葉山町教育委員会 会議室2
- 3 開催形態
公開(傍聴者3名)
- 4 出席者
委員14名出席(定足数)。
欠席6名(溝端委員、森田委員、鈴木委員、守屋委員、南委員、加藤委員)。
- 5 議事(事務局メモ)
 - (1)開会
(事務局)
 - ・ 子ども育成課長あいさつ。
 - ・ 傍聴について確認。
 - ・ 資料の確認。
 - (2)前回の確認
(事務局)
 - ・ 前回の議事要旨の確認。
 - ・ 中間報告の状況について説明。
 - ・ 民間保育所設置運営法人の募集について、4法人から応募があり、審査の結果、法人決定したことを報告。
 - (3)議題
子ども・子育て支援新制度住民向け説明会(意見交換会)について
(事務局)
 - ・ 前回会議での委員の意見をふまえて、委員自主打合せを再度実施。
 - ・ イベント概要案について説明。
(委員)

新制度は複雑な制度で、一般の人に説明するには相当丁寧な説明が求められる。その一方、時間は60分と限られており、説明する人には

相当の力量が必要と思うが、講師は誰を考えているのか？

県立保健福祉大学の新保幸男先生を予定。

(委員)

新年度の入園に向けて、幼稚園を見学したいという人が増えてきた。しかし、親御さんが新制度について知っているかという知らない。自分の子どもが新制度の対象になることを知らない人がほとんどだと思ふ

今回のイベントは50人とのことだが、新制度の周知としてこれだけの人数で足りるだろうか。おおまかな説明でもよいので、もっと説明の機会が必要だと思ふ。幼稚園にしても、現行の県から補助を受ける幼稚園、給付型の幼稚園、認定こども園といろいろ出てくる。どこを選んでよいか判断できる情報は、保護者には伝えるべき。

多くの方に知っていただくという点では、以前に提案のあった字ごに行う説明会も一案ではないか。

すべての親に関係するため、より多くの方に周知する機会が必要だと思ふ。気軽に参加できるように、新入園の時期にあわせて、もっと説明会の機会を増やす手もある。

いろいろな制度の説明会に行くことがあるが、遠くまで行ってあまり役に立たない話だとがっかりする。人を集めるのであれば、効果的な場にしないと意味がない。

先日、ゴミの戸別収集の説明会が各地域であり、時間も60分と短く内容も工夫されてわかりやすかった。親によってニーズは異なる。今回のイベントの概要をみると、人を集めるには大雑把な印象を受ける。親は忙しい。子どもをおいて2時間来るのだから、できるだけ有効な時間にしてほしい。

生涯学習課で青少年対象に事業を行っている。7月19日(土)にも毎年行っているイベントがあると思ふ。

(事務局)

子ども・子育て会議主催として、提案した日時、場所、内容で今回のイベントを実施することについては了承。

対象の規模を大きくした説明会の設定については別途検討する。

- 1 子ども・子育て支援事業計画策定に係る量の見込みの推計について(教育・保育)

(事務局)

- ・ ニーズ調査の結果をもとに算出した量の見込みについて説明(就労の下限時間は64時間に設定)

- ・ 潜在的なニーズをふまえると、現在予定している保育の受入枠では、将来的に対応できない状況。
- ・ 年齢別でみると、3～5歳では余裕があるが、0～2歳（特に0歳）では保育の枠は大きく不足している。
- ・ いくつかの確保方策を検討しているが、決め手には欠ける状況。今後、事業者の意向をふまえて、対応案を検討していく。

（委員）

5年間というスパンを考えたとき、0～2歳の保育ニーズについて、地域型保育給付で対応するのが一番やりやすいと思う。他市でも、やはり0～2歳の保育ニーズが高く、ここを家庭的保育で対応することだった。ただ、全国的に家庭的保育を普及する流れがある中、県内の自治体ではどのように研修を行うかが課題になっている。

葉山は自由な働き方をしている人が多い。既存のルールや枠にはまらない人が多い点をふまえると、例えばワーク・ライフ・バランスなどの面で、先駆的な取組みが進められる下地があると思う。現場のお母さんのニーズを吸い上げるという意味で、生のお母さん方をよく知っている団体と連携してみてもどうか。そうした中で、葉山独自の一時預かりのモデルを考えてもよいのではないか。

3～5歳は幼稚園と保育所をあわせると飽和状態になっているとのことだが、幼稚園に行っている子のお母さんは夏休みに仕事できないことがネックになっている。子どもの休みに合わせて、夏休みのとれる仕事は普通ない。数的に足りているから、3～5歳は現状でよいという方向には行かないでほしい。お母さんが自由な選択をできる幅をもたせてほしい。

（一時預かりなどで、）週1日利用とか週2日利用をうまく組み合わせることはできないか。

- 2 子ども・子育て支援事業計画策定に係る量の見込みの推計について（地域子ども・子育て支援事業）

（事務局）

- ・ 地域子ども・子育て支援事業の内容、量の見込み、対応案について説明。

時間の関係で、13本の事業のうち「利用者支援事業」を中心に議論。

（委員）

利用者支援事業で想定しているものは、引っ越してきた身としてはやってほしい内容。ぼけっとも場所がわからないので、できれば役場の窓口機能をおいてほしい。葉山は転入者が多いので、利用者も多

いと思う。役場は必ず来るところだし、例えば「一番近い公園はどこですか」とかいろいろと聞きたいことがある。

内容的には、現在、ぽけっとで実施している。幼稚園・保育園の特集も出しているし、すでに行われている。ただ、はじめの窓口はどこかといえば、役場になると思う。お母さんはまずは役場に行くし、役場の窓口なら赤ちゃん訪問や健診などにつなげて考えられる。

横浜の保育コンシェルジュは、ニュースでは満足度が高いように言われているが、お母さん方に感想を聞いてみると実際はそうでもない。公的なところが担っても、得られる情報量が少ないと満足度は低い。お母さんはインターネットである程度情報は持っており、個別具体的なことを知りたいと思っている。親が聞きたいことは、役場で説明していることとずれている。

ぽけっとに足を運べる人もいるが、そうでない人もいる。転入した親は必ず役場に行くので、機能としては役場に置いた方が効果的だと思う。ただ、役場に機能を置いたとして、その人の資質が大事で、そこで満足度が変わってくる。どこまで情報を開示できるか、また細かいところまで情報をもっていないと難しいのではないか。

転入のときに知りたいものと暮らしに必要な情報はまた違うのではないか。

子どもと行く場所がわからないと街中で聞かれることがある。例えば、転入したときに地域に児童館があることを伝えれば、お母さんは孤立しないのではないか。

どこにではなく、誰にが大事なのではないか。場所をつくるよりも、人のつながりができることが必要。コンシェルジュも一人ではなくて、この会議に出ている人などたくさんいればよい。それを町が把握して、紹介してあげればよいのではないか。

コンシェルジュは資格が必要なのか。

ここであげられている保育コンシェルジュなどの例は先行自治体の名称なので、特に資格要件があるわけではない。基本的には情報をもっていて、連絡調整ができる人というイメージでよいのではないか。

新制度に関する各種基準の検討について

(事務局)

- ・ 施設の運営基準と地域型保育事業の認可基準については、基本的に国基準をそのまま町条例にする方針。9月議会での提出を予定。
- ・ 保育料の徴収基準については、国から利用者負担の考え方が提示され、この考え方をもとに町で検討を行う。

- ・ 基本的に現行の仕組みと同じだが、町の追加負担（保護者の負担軽減）を続けていくか、幼稚園との差をどう考えるか、長時間保育と短時間保育の差をどのようにつけるかがポイントになる。

（委員）

現行の幼稚園は、いくら徴収しているのか？

おおぞら幼稚園の例だと、保育料のみで21,000円、給食費、バス代などを含めると32,000円くらいになる。現在、県から受けている補助は、園児1人あたりにすると13,000円程度。

（事務局）

後日、具体的な資料を送付し、次回本格的に議論する。

今後の放課後の居場所づくり（学童クラブ含む）の検討について

（事務局）

- ・ 昨年度に実施した小学生対象ニーズ調査の結果速報について説明。
- ・ この会議として、平成27年度の対応案と今後5年間の対応方針を秋ごろにまとめる予定。その内容をふまえて、町の新しい条例の具体的な基準も決定する。
- ・ 現在は町直営の学童と民間の自主学童のみだが、平成27年度以降は、町直営、町からの委託、民間への補助、民間独自サービスなど様々な選択肢がありうる。
- ・ 町直営の学童は、新しい国の基準との適合状況について確認作業を行っている。懸念されていた児童人数と設備関係も、ゆるやかに解釈すれば適合している状況。

（4）閉会

（事務局）

- ・ おひさま保育室が、認可化に向けて現在、建物を改修中。その間、一色小学校の新館に移転している。
- ・ 次回は、7月7日（月）か7月14日（月）の10時～12時30分で調整。

（以上）